

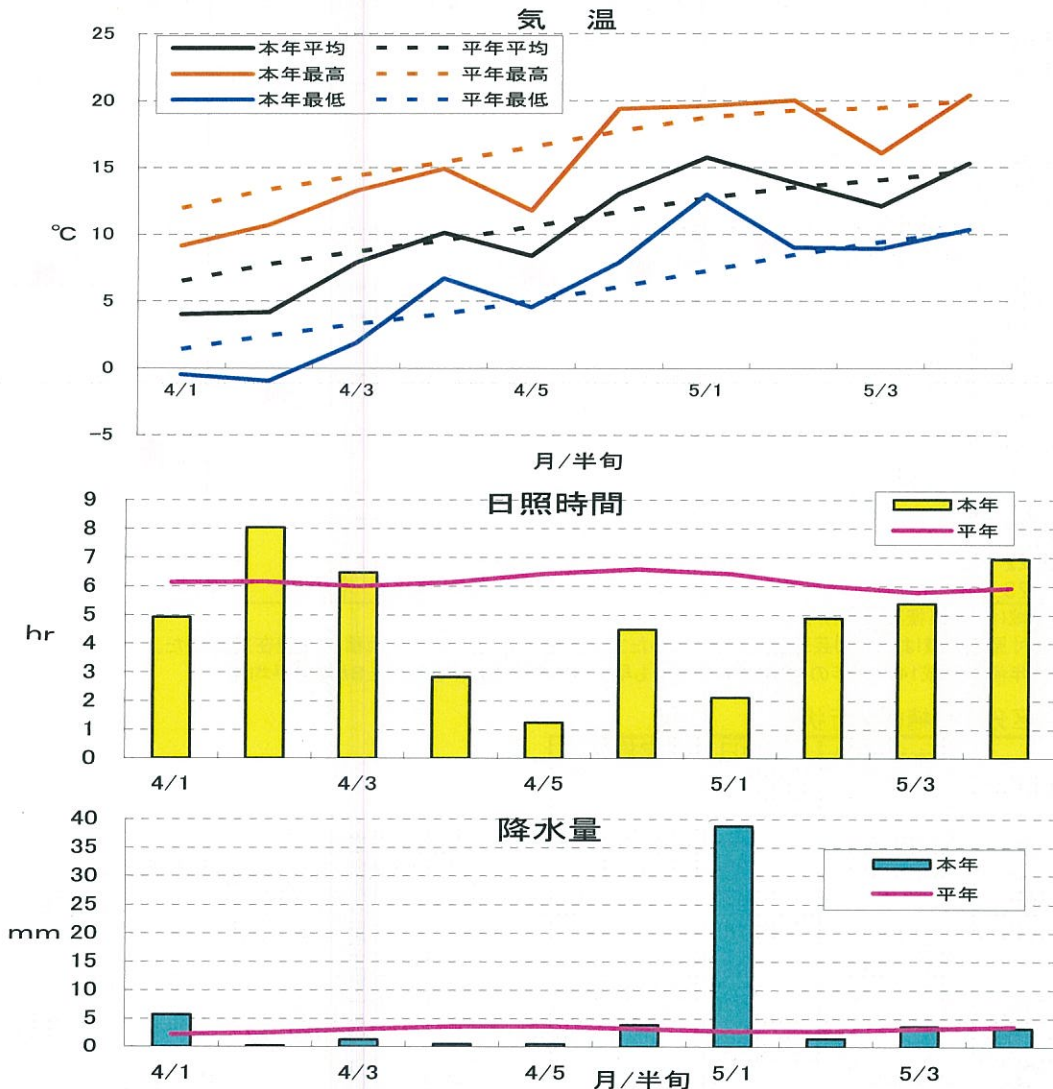
○平成24年産米田植えの進行状況(5/20)

○補植用取置き苗の早期処分の徹底

1. 気象経過

気温は4月第1~2、5半旬および5月第3半旬は低めとなったが、その他は平年並みからやや高めめで経過した。日照時間は4月第1~3半旬に多めであったが、第4半旬以降5月第1半旬までは少なく経過し、その後は平年並みとなった。4月の降水量は少なめであったが、5月3~4日にかけて、県内各地で大雨が降り、各アメダス観測点の降水量は、気仙沼230mm、大衡207.5mm、古川192mm、加美180.5mm、仙台161.5mm、白石130mm、築館135mm、亘理125mmとなり、県内のアメダス観測所の10地点で5月の観測史上1位を更新し、各地に大雨・洪水警報が発表された。

平成24年稲作期間の気象経過(古川)(平年値1981~2010年)



注) 日照時間、降水量の数値は1日当りの平均値で示した(旬別の実数値は5倍した数値)。

2. 平成 24 産米の田植の進行状況

本年の水稲の播種盛期は平年に比べて 2 日遅く、生育も遅めで、一部でフザリウムやリゾプス、立枯細菌病の発生がみられた。

5 月 20 日現在の田植の進行は、東部石巻、北部大崎が最も早く、盛期(田植え済み面積 50%)は 5 月 11 日、次いで大河原、仙台地域が早く盛期は 5 月 12 日、東部登米が 5 月 13 日となり、相対的に遅かったのは北部栗原、気仙沼地域で 5 月 16 日、18 日となりました。県平均の田植盛期は 5 月 12 日で平年より 3 日遅くなりました。これは作柄の安定化と品質向上のための 5 月中旬後半に移植する適期栽培(晩期栽培)に向けて播種期、移植期を遅らせたことと、4 月の低温、5 月上旬の大雨による作業の遅れなどの影響と考えられます。5 月 15 日以降に移植した面積は 17,629ha、作付面積の 33.9%であり震災で田植の遅れた昨年より 0.6%、約 870ha 減少しました。

平成24年県地方振興事務所別の田植え進行状況(左側から盛期の早い順)
(始:作付見込面積の5%田植え済み 盛:50%済み 終:95%済み)

地域 月日	東部(石巻) ha	北部(大崎)	大河原	仙台	東部(登米)	北部(栗原)	気仙沼	県計	県平年
5/3									
5/4				始					始
5/5	始		始		始			始	
5/6		始				始			
5/7							始		
5/8									盛
5/9									
5/10									
5/11	盛	盛						盛	
5/12			盛	盛					
5/13					盛				
5/14									
5/15									
5/16						盛			
5/17									
5/18							盛		終
5/19	終								
5/20									
5/21									
5/22									
5/23									

注 地域は、各県振興事務所管内

作付見込面積は農産園芸環境課取りまとめた主食用米の作付け見込み面積(4/9現在)を用いた。

平年値は平成14~23年の10か年間のうち最も早い年と最も遅い年を除いた8か年の平均値

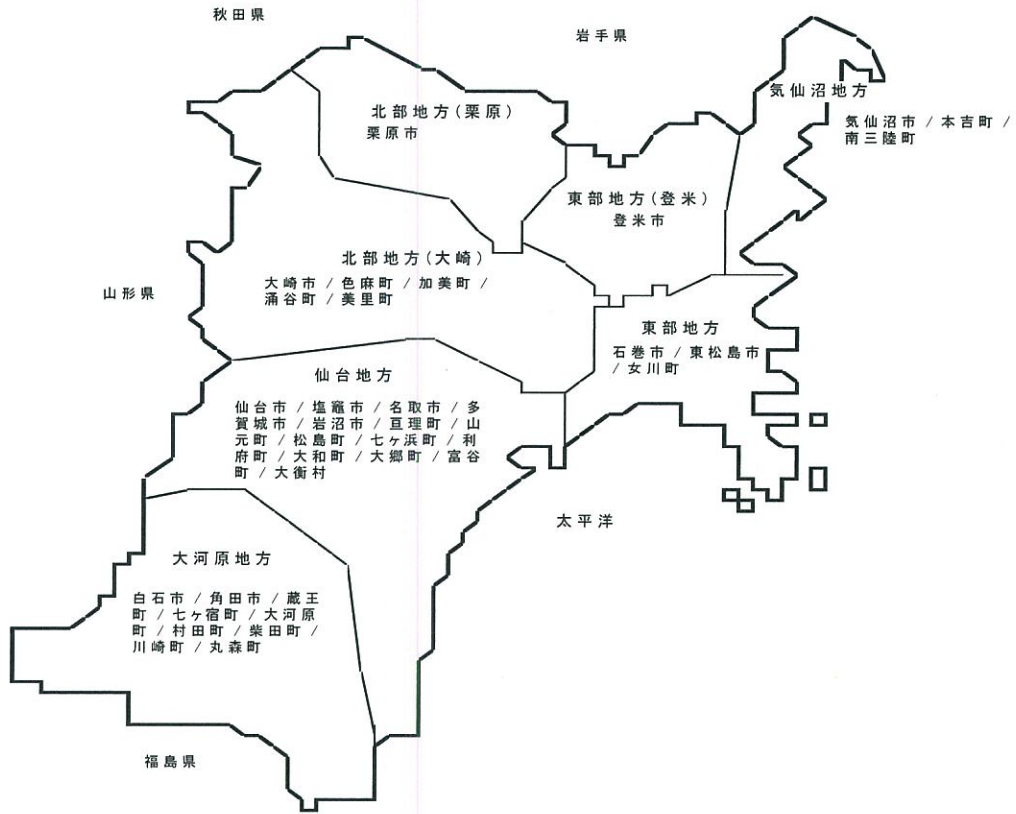
地帯区分別田植の進行状況

地帯区分	水稻作付 見込面積 (ha)	5月20日現在実施状況	
		田植面積 (ha)	進行率 (%)
山間高冷	1,197	662	55.3
西部丘陵	6,361	4,839	76.1
北部平坦	48,201	45,367	94.1
南部平坦	6,188	5,984	96.7
三陸沿岸	1,193	910	76.3
仙台湾沿岸	6,484	5,539	85.4
県計	69,624	53,301	90.9

田植時期の比較

区分	始期(5%)	盛期(50%)	終期(95%)
本年	5月5日	5月12日	-
前年	5月8日	5月17日	5月26日
平年	5月4日	5月9日	5月18日
平年差	1日遅い	3日遅い	-

《参考：宮城県地域振興事務所別区分図》



3 今後の管理

- 1) 田植後は活着を促進するため2~3cmの浅水管理とし、低温の予想される日には深水管理とします。
- 2) 補植用取置き苗はいもち病の主要な伝染源です。害虫繁殖の原因にもなりますので早期に処分しましょう。

